



# ルセフィ®を 服用されるお子さんと そのご家族の方へ

ルセフィ®は2型糖尿病のお薬です  
尿の中に糖を出すことで、血糖値を下げます

## ルセフィ®を飲むときに気をつけること

### 飲み方

通常1日1回 朝食前または朝食後に飲みます。  
1回に飲む量は、お医者さんが決めます。  
お医者さんや薬剤師さんの説明通りに飲みましょう。

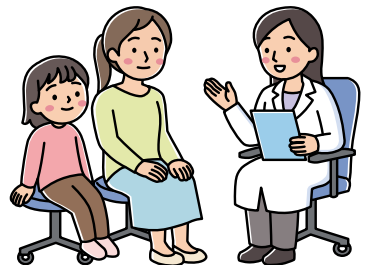
### 飲み 忘れたら

気がついたときに、すぐに1回分を飲みましょう。  
ただし、次に飲むまでの時間が近いときは、その日は飲まないで、次の日に1回分を飲みましょう。  
2回分を一度に飲んではいけません。

このお薬を飲んでる期間は、水分をこまめにとりましょう。

体調で気になることがあるときや、いつもと様子がちがうと感じたときは、すぐに家族やまわりの人に伝え、お医者さんにみてもらいましょう。

このしおりの内容でわからないことがあれば、いつでもお医者さんや薬剤師さんに聞きましょう。





つぎ しょうじょう で い しゃ  
**次の症状が出たときはお医者さんや  
 薬剤師さんに伝えましょう**

- 異常におなかがすく  
いじょう からだ ちから はい
- 体に力が入らない
- 手足がふるえる  
てあし
- 冷や汗が出る  
ひ あせ で



すぐにジュースや  
 あめなどの  
 甘いものを  
 とってください

すぐに水分をとってください  
すいぶん

- 口やのどがかわく  
くち
- トイレの回数が増える  
かいすう ふ
- めまい、ふらつきがある



- 食欲がない  
しょくよく
- 吐き気がする  
は け
- だるい



- 尿を出すときに痛みがある  
にょう だ いた
- 尿が残っている感じがする  
にょう のこ かん
- 性器(おまたのあたり)にかゆみや  
 痛みがある  
せいき いた



予防のために

性器のまわりを  
 清潔にしましょう  
せいき せいけつ

しょうじょう で ちゅうい  
**次のときは、症状が出やすくなるので注意しましょう**

- 食事や水分が十分にとれていないとき  
しょくじ すいぶん じゅうぶん
- はげしい運動をしたとき  
うんどう
- たくさん汗をかいたとき  
あせ





保護者の方へ

# 水分を適度にとらせて、 脱水症状に注意してください

このお薬の作用により、次のような症状があらわれることがあります。

- 口やのどが渇く
- 尿の量が増える
- 排尿回数が増える

- ✓ 脱水にならないように**適度な水分補給**をさせてください。一度に多くの水分をとるのではなく、口やのどが渇かなくても**こまめな飲水**を続けさせてください。本剤服用中は、尿量や排尿回数の増加などを気にして、水分補給を控えないようお子さんにご指導ください。
- ✓ 学校などでは適切なタイミングでの水分補給が難しい場合があるため、必要に応じて関係者へ理解や協力を求めるようにしてください。
- ✓ ひどい下痢や発熱、食事がとれないなどの病気にかかった場合には、**脱水になりやすい**ので、すぐに医師・薬剤師に相談してください。



## 脱水の主な症状

**!** お子さんがこのような症状を訴えた場合は、  
すぐに医師・薬剤師に相談してください。

- 口やのどが渇く
- ふらふらする
- 立ちくらみ など



## 脱水が起こりやすい状況

**!** このようなときには特に注意が必要です。

- 汗を多くかいたとき(夏場など)
- 発熱、下痢、嘔吐があるとき
- 食事が十分にとれていないとき
- 飲水量が少ないとき(冬場など)
- 血糖コントロールが極めて不良のとき
- 利尿剤を併用しているとき など





保護者の方へ

# 体調の変化に 注意してください

このお薬は、脂肪酸代謝を亢進させるため、その分解物であるケトン体が血中が増えて、血糖値が高なくてもケトアシドーシス※になることがあります。

本剤の服用中は、以下のような体調の変化に注意してください。

※ケトアシドーシスとは

血液中のケトン体の量が増えることで、血液が酸性に傾き、体調にさまざまな変化を起こします。気づかずに重症となると意識障害に至る場合もあります。



予防のために

過度な糖質摂取制限を  
避け、食事や水分を  
きちんととらせてください

## ケトアシドーシスの主な症状

**!** お子さんがこのような症状を訴えた場合は、  
すぐに病院を受診してください。

- 吐き気、嘔吐
- 食欲がない
- お腹が痛い
- 口やのどがひどく渴く
- だるい、息苦しい
- 意識の低下 など



## ケトアシドーシスが起こりやすい状況

**!** このようなときには特に注意が必要です。

- インスリン製剤を減量や中止したとき
- 糖質摂取を制限しすぎたとき
- 食事が十分にとれていないとき
- 感染症にかかったとき
- 脱水症状のとき など





# 低血糖に 注意してください

## 低血糖の主な症状

- 冷や汗
- 手足のふるえ
- 強い空腹感
- 脱力感 など



## 低血糖が起こりやすい状況

- 食事の遅れ・量の不足
- 激しい運動 など

低血糖は進行すると意識を失うこともあります。

お子さんが症状を訴えたときに、  
**すぐに糖分(糖質を含む食品など)をとれるようにしてください。**



**注意**

α-グルコシダーゼ阻害薬(アカルボース、ボグリボース、ミグリトールなど)を併用されている方は、必ずブドウ糖をとってください。

それでも症状が回復しない場合は、すぐに病院を受診してください。

✓ 飲み合わせで低血糖が起こりやすくなる場合があります。ほかのお薬を開始する場合は、医師・薬剤師に相談してください。

✓ 自転車に乗る際などに低血糖を起こすと事故につながりますので、特に注意するようお子さんにご指導ください。





# 尿路感染、性器感染に 注意してください

このお薬の服用中は尿中に糖が出るため、  
尿路や性器が感染しやすい状態になります。  
本剤の服用中は、以下のような症状に注意  
するようお子さんにご指導ください。



予防のために

尿意を我慢しないこと、  
陰部の清潔を心がけることを  
お子さんにご指導ください

## 尿路感染の主な症状

- 排尿時の痛み ● 陰部のかゆみ
- 排尿後も尿が残っている感じ など



## 性器感染の主な症状

- 陰部のかゆみ ● 陰部の灼熱感 など

お子さんがこのような症状を訴えた場合は、すぐに医師・薬剤師に相談して  
ください。



尿路感染や性器感染が重症になると、腎盂腎炎、陰部の壊死性感染症\*、  
敗血症などになる場合があります。

症状が急速に進行するため、早期に発見し治療を行うことが重要です。

\*陰部が赤紫色に腫れて水ぶくれができたり、ただれたりします。強い痛みや高熱をとまいません。

【ODフィルム剤を処方された場合の注意】

患者さん以外のお子さんも含めて、遊んだり誤って服用したりしないよう、手が届かない場所に保管するなど  
適切に管理してください。

医療機関名

